

2025年9月期 第3四半期 決算説明資料

2025年8月

フィンテック グローバル株式会社

(東証スタンダード市場 : 8789)

<https://www.fgi.co.jp/>

目次

総括	2
連結業績概況	3
連結業績予想の修正	4
セグメント別業績	6
投資銀行事業	8
公共コンサルティング事業	16
エンタテインメント・サービス事業	17
連結財務諸表	21
株主還元	23
連結経営指標等の推移	24
会社概要	25
FGIグループ会社・事業セグメント	26

●2025年9月期第3四半期 実績

事業承継案件へのプライベートエクイティ（PE）投資が業績牽引増収、営業増益となるが、特別損失により最終利益は減益

- ✓ 事業承継案件の売上高は、Q1組成の大型案件の投資回収等により前Q3累計比41.9%増の43億円
Q3には新たな大型案件を組成
- ✓ トラックオペレーティングリースのアレンジ等が好調
- ✓ 不動産小口化商品の販売が、業務提携した東洋証券(株)の販売網活用により好調
- ✓ 航空ビジネスは減収減益 航空資産のオペレーティングリースの実行は順調
- ✓ メッツァは、来園者数が4－6月に伸び悩むも、前Q3累計比6.3%増
エンタメ事業は15.6%増収、黒字化
- ✓ 新たな収益源を開拓するために実施した新規プロジェクトに関連する貸付金について、
回収可能性を検討した結果、特別損失として貸倒引当金繰入額505百万円を計上

●2025年9月期 連結業績予想

**売上高は+13.8%、営業利益は+3.2%、経常利益は+3.3%の上方修正
最終利益は、繰延税金資産の計上額が計画より大きくなるものの、
上記の特別損失の影響により、据え置き**

期末配当予想は、3円(前期比1円50銭増)で変更なし

連結業績概況

(単位：百万円)

	2024/9期 第3四半期累計	2025/9期 第3四半期累計	増減額	増減率
売上高	9,578	10,358	+779	+8.1%
売上総利益	5,589	6,782	+1,192	+21.3%
営業利益	2,206	2,862	+656	+29.8%
経常利益	2,108	2,788	+679	+32.2%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	* 1,644	1,597	△ 46	△ 2.9%
償却前営業利益	2,556	3,222	+665	+26.0%
EPS(円)	* 8.22	8.19	△0.03	—
ROE (年換算)	* 24.5%	21.4%	△ 3.1 pt	—

償却前営業利益： 営業利益+売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

ROE（年換算）： 親会社株主に帰属する四半期純利益を3分の4倍して算出

* 2024/9期末の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定により、見直し後の金額を使用

売上高

事業承継案件へのPE投資の回収、トラックオペレーティングリースのアレンジ・ファンド管理、エンタテインメント・サービス事業による売上が伸びる。航空ビジネス、アセット投資は減収。

売上総利益

投資銀行事業における粗利率の高いPE投資等の売上増加により増益。

営業利益・経常利益

販管費が15.8%増となるも、売上総利益の増加により増益。

親会社株主に帰属する 四半期純利益

特別損失505百万円や、前Q3連結累計期間において特別利益に負ののれん発生益241百万円があった反動もあり、減益。

連結業績予想の修正 (2025年8月8日公表)

(単位：百万円)

	2025/9期 期初予想	2025/8/8 修正予想	増減額	増減率	2025/9期 Q3累計実績	Q3進捗率 対 修正予想	(参考) 前期実績
売上高	12,300	14,000	+1,700	+13.8%	10,358	74.0%	13,807
営業利益	3,100	3,200	+100	+3.2%	2,862	89.5%	2,569
経常利益	3,000	3,100	+100	+3.3%	2,788	89.9%	2,461
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益	2,000	2,000	—	—	1,597	79.9%	1,675

売上高

各事業の好調により、上方修正

事業承継案件へのPE投資・・・大型案件を組成、投資回収に至るなど好調。
トラックオペレーティングリースのアレンジ・・・ファンド組成などが想定を上回るペースで拡大。
航空機のオペレーティングリース・・・案件組成と機体売却が期初計画を上回る見込み。

営業利益・経常利益

販管費の増加により、小幅な上振れに留まる

販管費は、人員増強や当社正社員の給与水準引き上げによる人件費の増加に加え、
広告宣伝費、支払手数料などが期初計画より増加する見込み。

親会社株主に帰属する 四半期純利益

予想値は据え置き

経常利益の増加に加えて、今後の業績動向等を踏まえて、繰延税金資産の計上額が期初計画より大きくなるが見込まれるが、特別損失505百万円の影響があるため、予想値は据え置き。

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

四半期連結業績推移

(単位：百万円)

	2024/9期						2025/9期				前Q3比 増減額 (増減率)	前Q3 累計比 増減額 (増減率)
	Q 1	Q 2	Q 3	Q 3 累計	Q 4	Q 4 累計	Q 1	Q 2	Q 3	Q 3 累計		
売上高	3,434	3,120	3,023	9,578	4,228	13,807	3,876	2,920	3,561	10,358	538 (17.8%)	779 (8.1%)
売上総利益	2,102	1,765	1,721	5,589	1,765	7,355	2,436	1,857	2,487	6,782	766 (44.6%)	1,192 (21.3%)
営業利益	976	670	559	2,206	363	2,569	1,211	548	1,102	2,862	543 (97.1%)	656 (29.8%)
経常利益	953	634	520	2,108	352	2,461	1,153	558	1,076	2,788	555 (106.8%)	679 (32.2%)
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	589	703 * 2	352 * 2	1,644 * 2	31	1,675	851	439	306	1,597	△ 45 (△ 12.9%)	△ 46 (△ 2.9%)
償却前営業利益	1,095	793	667	2,556	481	3,038	1,325	671	1,225	3,222	557 (83.5%)	665 (26.0%)

* 1 償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

* 2 2024/9期末の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定により、見直し後の金額を記載

セグメント別業績 - 1

- ①投資銀行事業・・・事業承継案件へのPE投資とやトラックオペレーティングリースのアレンジ等による売上が増加。
前Q3累計比で売上高6.6%増、売上総利益18.3%増、セグメント利益21.4%増。
- ②公共コンサル事業・行政計画の策定支援等が増加し、売上高は前Q3累計比6.5%増となるも、人員増強により人件費が増加。
セグメント損益は44百万円悪化。
- ③エンタメ事業・・・料金改定により来園者数が前Q3累計比6.3%増加し、チケット、物販、飲食等の売上が増加。
原価低減、固定費削減も進み、売上高は前Q3累計比15.6%増加。セグメント損益は257百万円改善し、黒字転換。

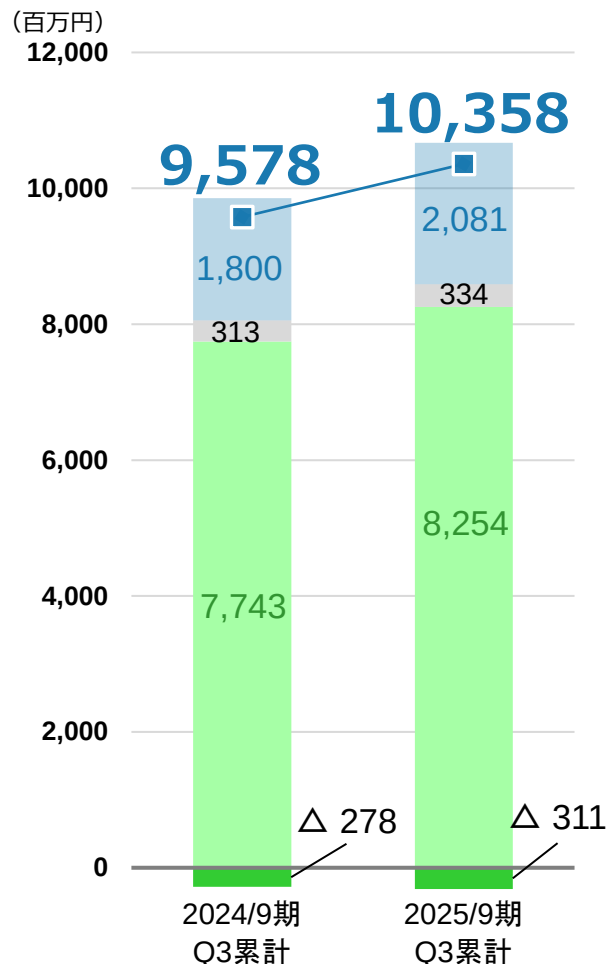
(単位：百万円)

報告セグメント	科目	2024/9期						2025/9期				前Q3比	前Q3 累計比
		Q1	Q2	Q3	Q3累計	Q4	Q4累計	Q1	Q2	Q3	Q3累計		
投資銀行事業	売上高	2,673	2,642	2,426	7,743	3,601	11,344	2,994	2,317	2,942	✓8,254	516	✓511
	売上総利益	1,857	1,703	1,551	5,111	1,584	6,696	2,076	1,705	2,265	✓6,047	714	✓935
	セグメント利益	1,191	1,063	823	3,077	852	3,930	1,399	859	1,477	✓3,735	654	✓657
公共コンサルティング 事業	売上高	119	119	74	313	138	452	125	123	84	✓334	10	✓20
	売上総利益	73	75	52	200	97	298	74	71	60	207	8	6
	セグメント利益	5	6	△28	△16	△2	△18	△8	△9	△41	✓△60	△13	✓△44
エンタテインメント・サービス 事業	売上高	713	494	591	1,800	659	2,459	863	604	613	✓2,081	21	✓280
	売上総利益	210	52	152	415	203	618	338	140	179	✓658	26	✓242
	セグメント利益	1	△143	△56	△198	△45	△244	159	△61	△39	✓58	17	✓257
調整額 (セグメント間取引消去 又は全社費用)	売上高	△71	△136	△69	△278	△169	△448	△106	△125	△79	△311	△9	△32
	売上総利益	△37	△65	△35	△138	△118	△257	△52	△59	△18	△130	17	7
	セグメント利益	△222	△255	△178	△657	△440	△1,097	△339	△238	△293	△871	△114	△214
連結P L 計上額	売上高	3,434	3,120	3,023	9,578	4,228	13,807	3,876	2,920	3,561	10,358	538	779
	売上総利益	2,102	1,765	1,721	5,589	1,765	7,355	2,436	1,857	2,487	6,782	766	1,192
	営業利益	976	670	559	2,206	363	2,569	1,211	548	1,102	2,862	543	656

- 各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高です。
- 調整額（セグメント利益）（2025年9月期Q3累計は△871百万円）には、セグメント間取引消去（2025年9月期Q3累計は162百万円）及び報告セグメントに配分していない全社費用（2025年9月期Q3累計は△1,034百万円）を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

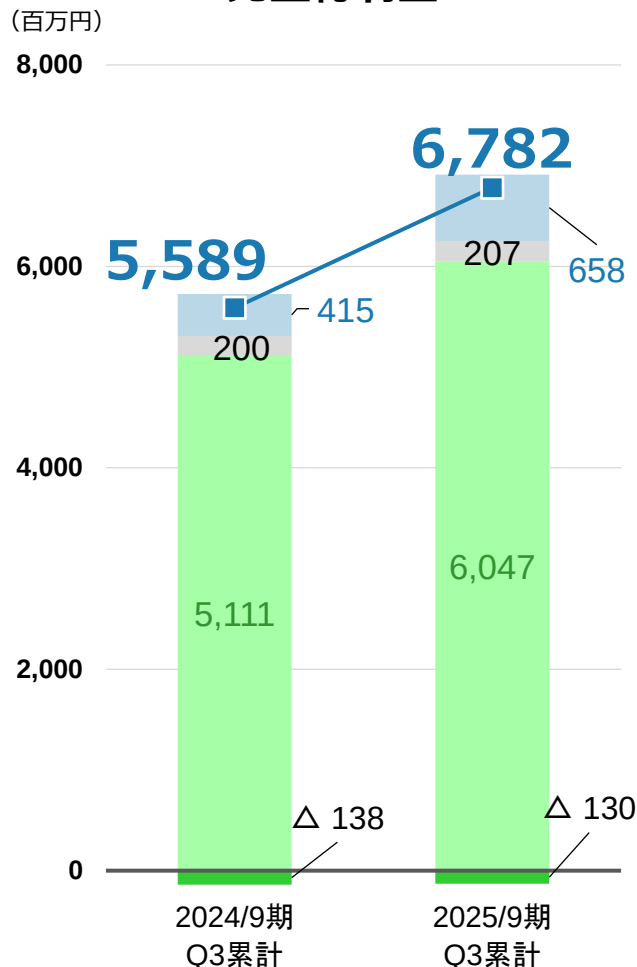
セグメント別業績 - 2

売上高



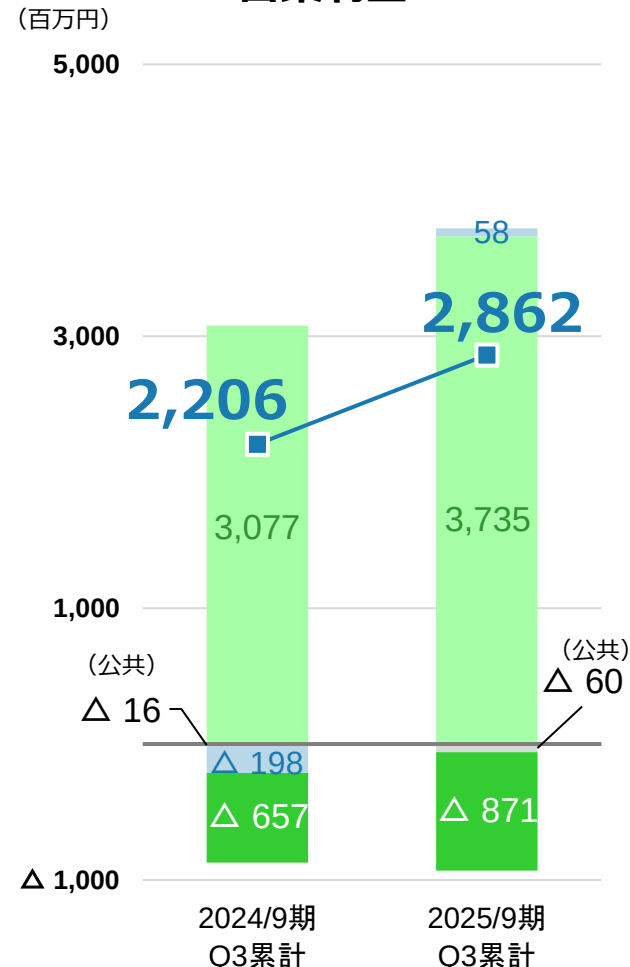
779百万円増 (8.1%増)

売上総利益



1,192百万円増 (21.3%増)

営業利益



656百万円増 (29.8%増)

(注) セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。

投資銀行事業

公共コンサルティング事業

エンタテインメント・サービス事業

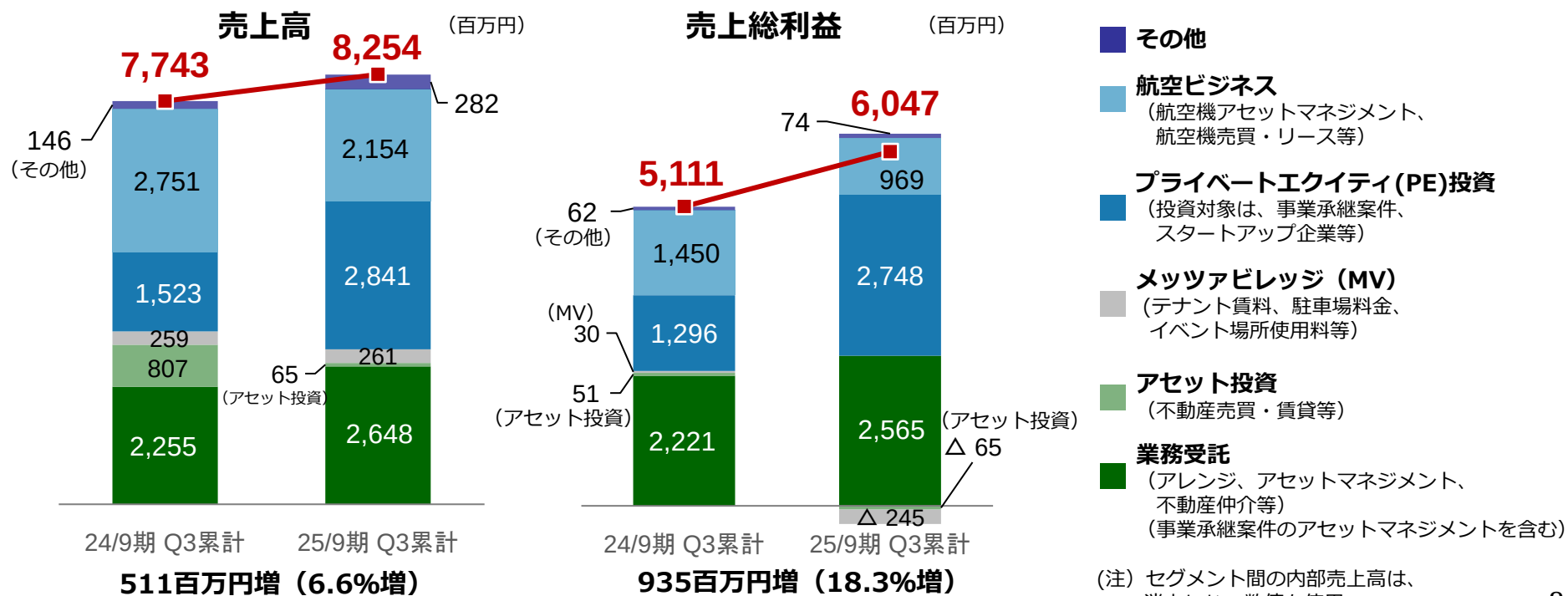
全社費用または取引消去

投資銀行事業 — 業務別売上高、売上総利益

事業承継案件へのPE投資の回収が順調に推移

トラックオペリースのアレンジも拡大して、売上総利益は18.3%の増益

- PE投資** 事業承継案件のPEファンドの投資回収が順調に進み、増収増益。
- 業務受託** 事業承継案件の業務受託売上は、好調を維持。
トラックオペレーティングリースのアレンジやファンド管理等による売上高が、前Q3累計比2倍超となり、増収増益。
- アセット投資** 不動産小口化商品（2号案件）が2024年中に完売。
新たな不動産小口化商品（3号案件）を組成し、25年6月から販売開始。業務提携した東洋証券(株)と連携し販売は好調。
- MV** 駐車料やテナント賃料収入は堅調に推移。Q1にハイパーミュージアム飯能開設に伴う既存施設の除去損200百万円計上。
- 航空ビジネス** 航空機不足によるリース契約延長の増加により、リース返還時などに行われる機体検査の技術サービス売上が減少。
リース事業では、3件の航空資産のセールアンドリースバックを実行。
Q4には2件の新規実行と、2件のリース契約付売却を予定し好調。



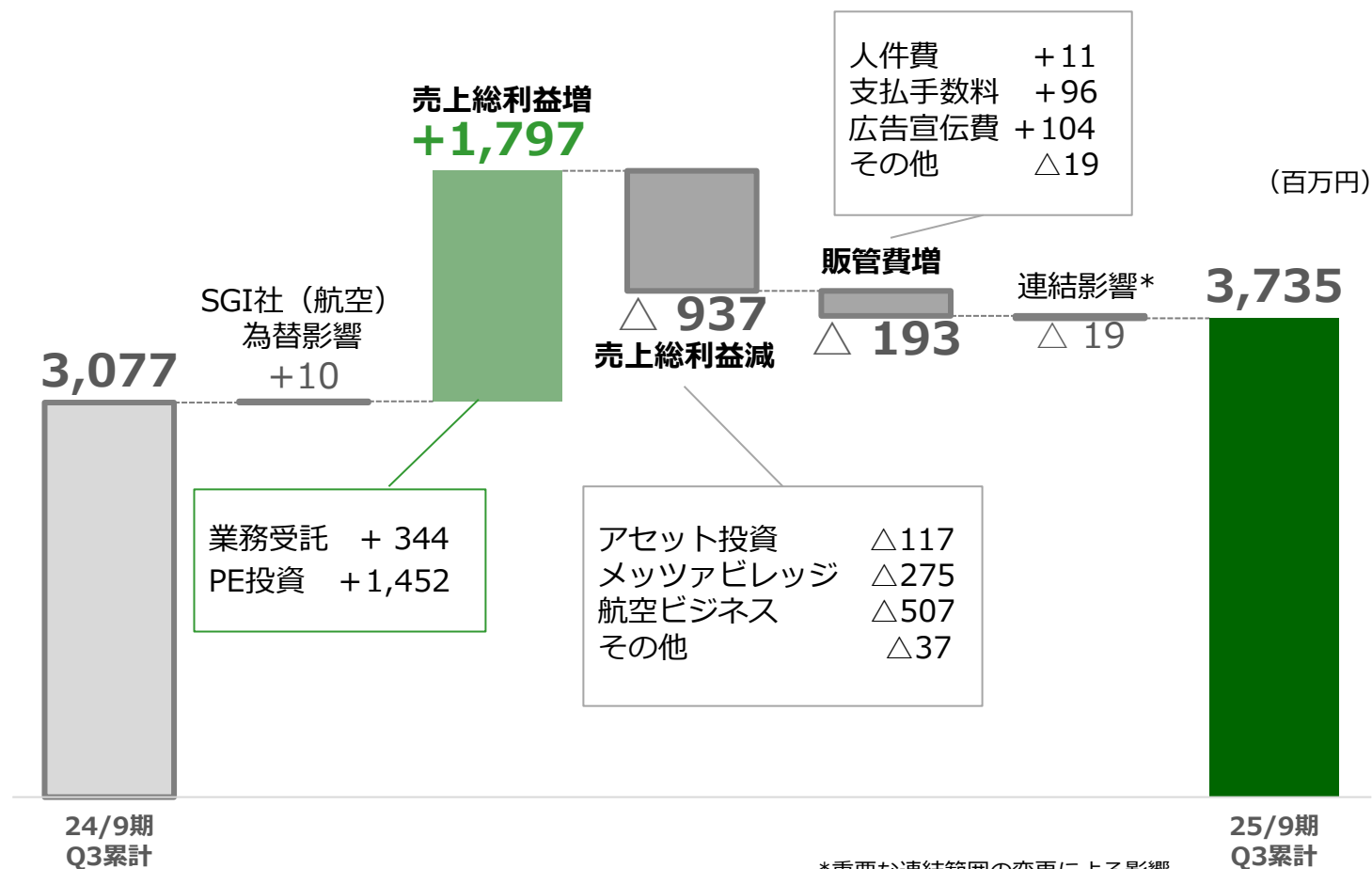
- その他**
- 航空ビジネス** (航空機アセットマネジメント、航空機売買・リース等)
- プライベートエクイティ(PE)投資** (投資対象は、事業承継案件、スタートアップ企業等)
- メツアビレッジ (MV)** (テナント賃料、駐車場料金、イベント場所使用料等)
- アセット投資** (不動産売買・賃貸等)
- 業務受託** (アレンジ、アセットマネジメント、不動産仲介等) (事業承継案件のアセットマネジメントを含む)

(注) セグメント間の内部売上高は、消去しない数値を使用。

投資銀行事業 – セグメント利益

売上総利益の増加が、販管費の増加を吸収し、セグメント利益は21.4%増

- PE投資の回収、トラックオペレーティングリースのアレンジにより、売上総利益が大きく増加。
- 販管費は、事業拡大に向けて積極的に資金を投下。
メツアのプロモーション活動や、「ハイパーミュージアム飯能」開業費用により、広告宣伝費・支払手数料が増加。



投資銀行事業 — 投融資残高

事業承継案件の分配金受領によりプリンシパルインベストメントが減少し、
貸倒引当金の計上により企業融資が減少* 第2四半期末比4.2%減

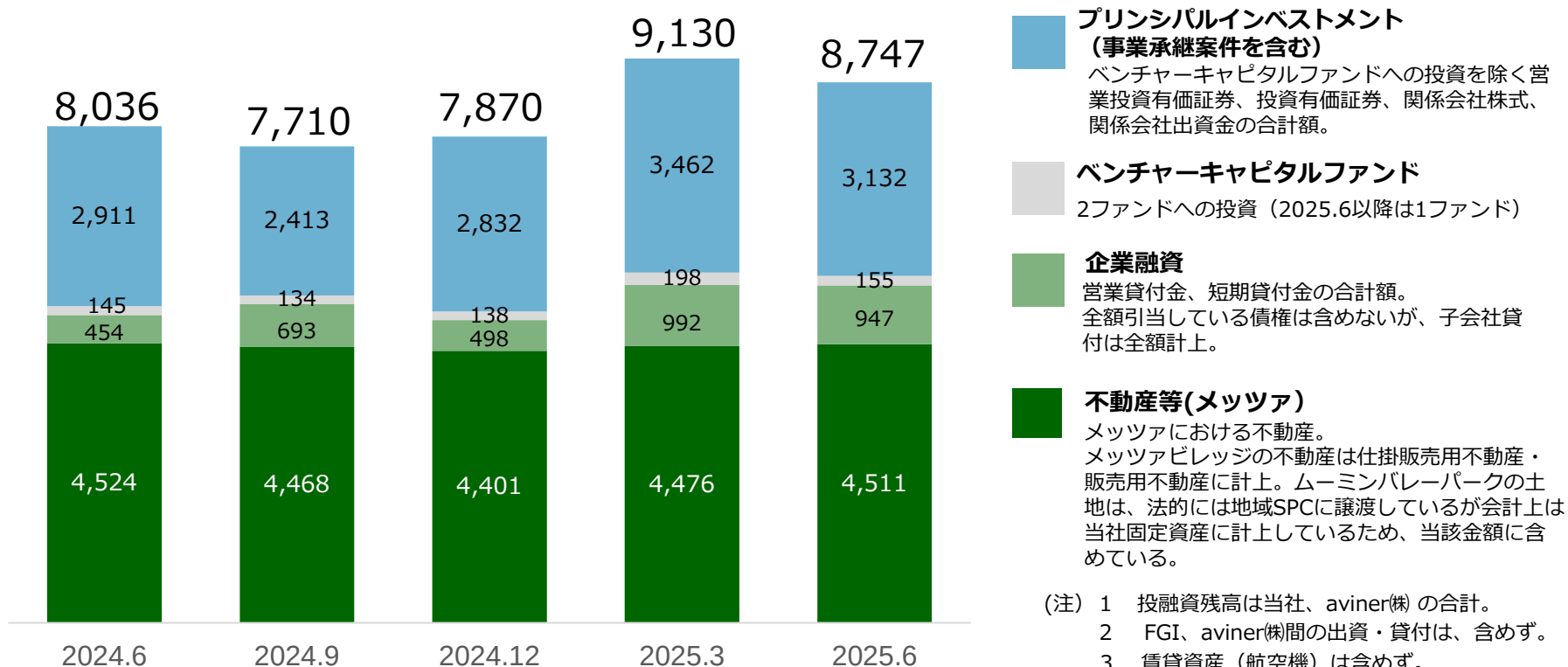
〔2025年9月期第3四半期の変動要因〕

■ プリンシパルインベストメント・・・次頁参照。

■ 企業融資・・・・・・・・・・・・・・・・新規プロジェクトに関連して25/9期2Q～3Qに短期貸付金を実
行したが、貸倒引当金505百万円を計上したため減少。

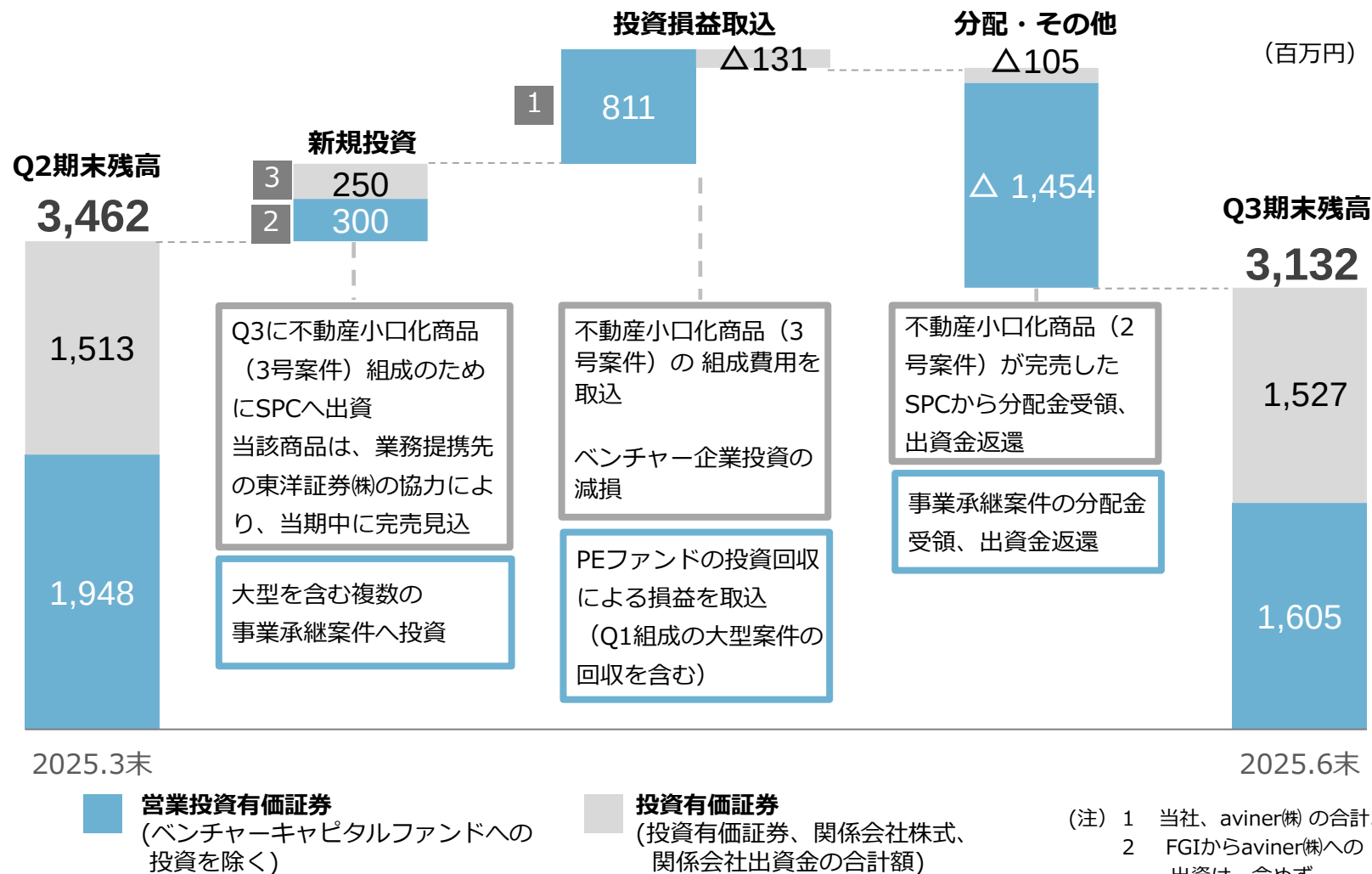
* 全額引当した子会社以外への短期貸付金は、投融資残高に含んでおりません。

投融資残高 (子会社への出資を含む) (百万円)



投資銀行事業 — 投融資残高（プリンシパルインベストメントの増減内訳）

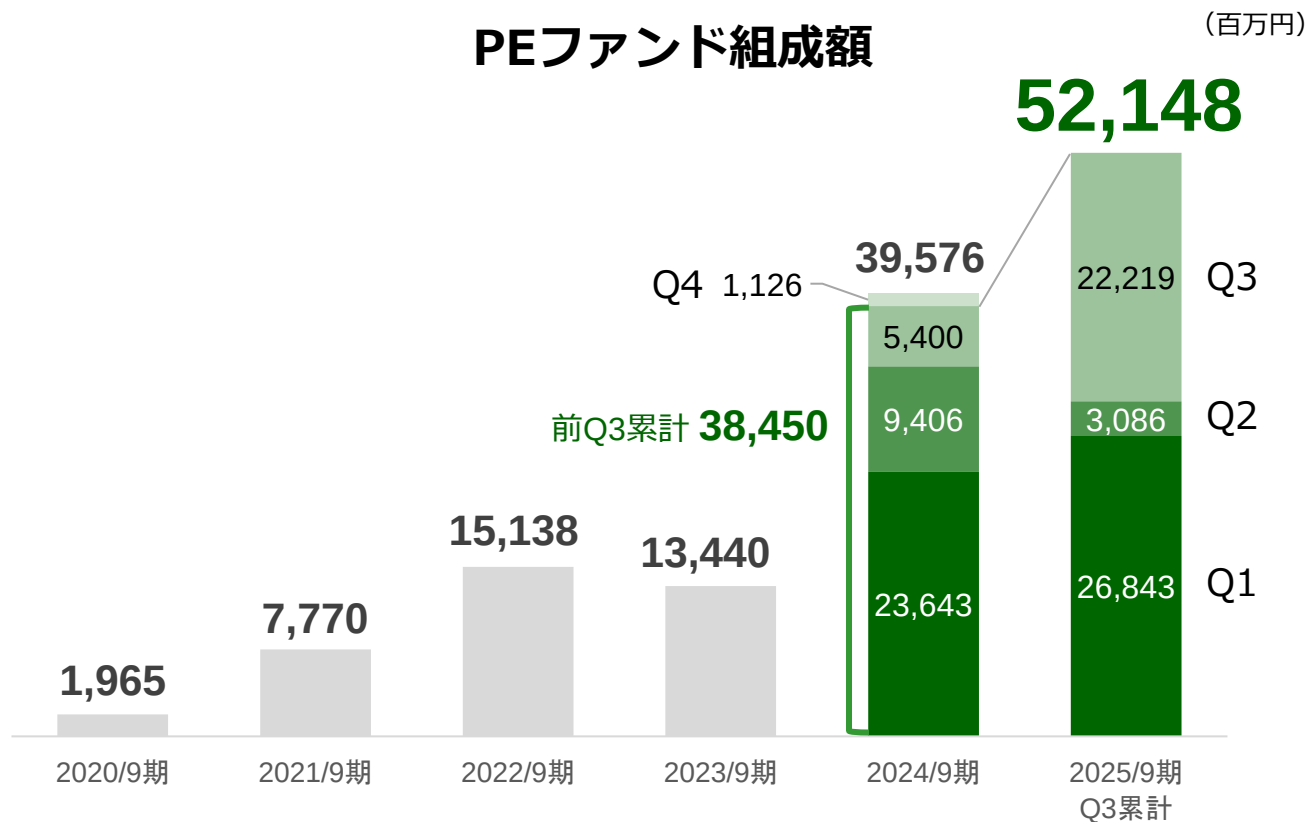
- 1 Q1に投資実行した事業承継案件が、大きなリターンを創出
- 2 Q3に大型案件への新規投資を実行し、次期の収益化を予定
- 3 Q3に実行した不動産小口化案件の組成に伴う投資は、当期中に回収予定



投資銀行事業 — PEファンドの事業承継案件への投資額

当Q3累計のPEファンド組成額（≡ 投資額）は、前年同期比35.6%増の521億円
前期の通期実績の132%に達する

- Q1 大型案件を組成。当該案件はQ3に投資回収。
- Q2 複数の中小案件を組成。新たな大型の買収案件の優先交渉権を取得。
- Q3 Q2に優先交渉権を獲得した大型案件を組成。



投資銀行事業 — 事業承継案件による収益

事業承継案件の投資回収と業務受託による通期売上高は、50億円の見込み (2025年5月9日公表値より **7 億円増加**)

当社グループが出資する複数のPEファンドの投資回収による投資収益を取り込むとともに、アセットマネジメントによる業務受託収益を計上し、当Q3に売上高17億円を計上。
またQ4に売上高7億円を計上予定となり、営業利益にほぼ同額のプラスの影響を与える見込み。

(億円)

	売上高			
	24/9期 実績	実績又は見込額 (25.2.12公表)	実績又は見込額 (25.5.9公表)	実績又は見込額 (25.8.8公表)
Q1 (実績)	11	16	16	16
Q2 (実績)	9	—	9	9
Q3 (実績)	9	—	—	17
Q4 (実績)	9	—	—	—
Q2～Q4 (見込額)	—	19	—	—
Q3～Q4 (見込額)	—	—	17	—
Q4 (見込額)	—	—	—	7
25/9期通期 (実績又は見込額)	40	36	43	50

投資銀行事業 — 預り資産残高

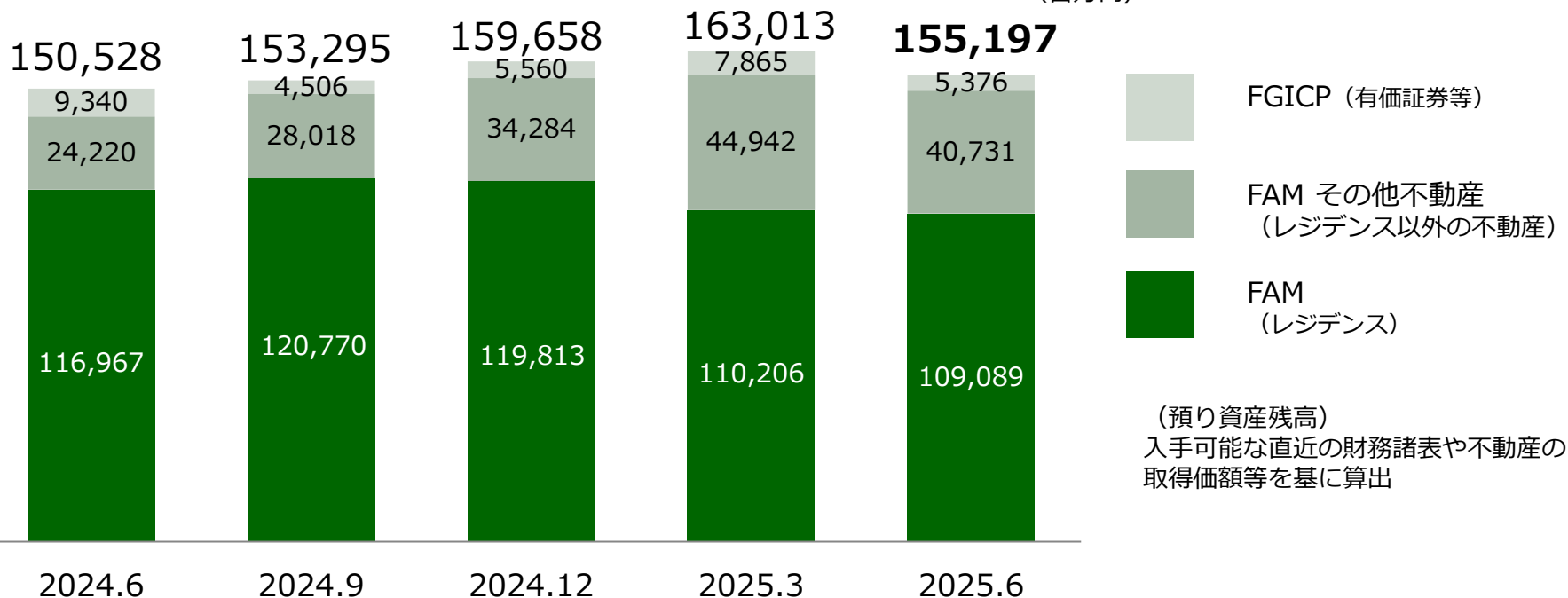
預り資産残高は、2025年3月末比4.8%減の1,551億円

■ レジデンス・・・不動産小口化商品の組成に伴う増加があるも、その他のレジデンス向け投資の回収により減少。

■ その他不動産・・・受託不動産の売却が進んだことや、オーナーチェンジに伴うアセットマネジメント契約終了などにより減少。

*FAMの投資運用・投資助言とFGICPの投資運用における契約資産の合計です。

(百万円)



フィンテックアセットマネジメント(株) (FAM)

投資運用業、投資助言・代理業 (関東財務局長 (金商) 第2014号)
総合不動産投資顧問業 (総合一第74号)
不動産特定共同事業 (金融庁長官・国土交通大臣第54号)

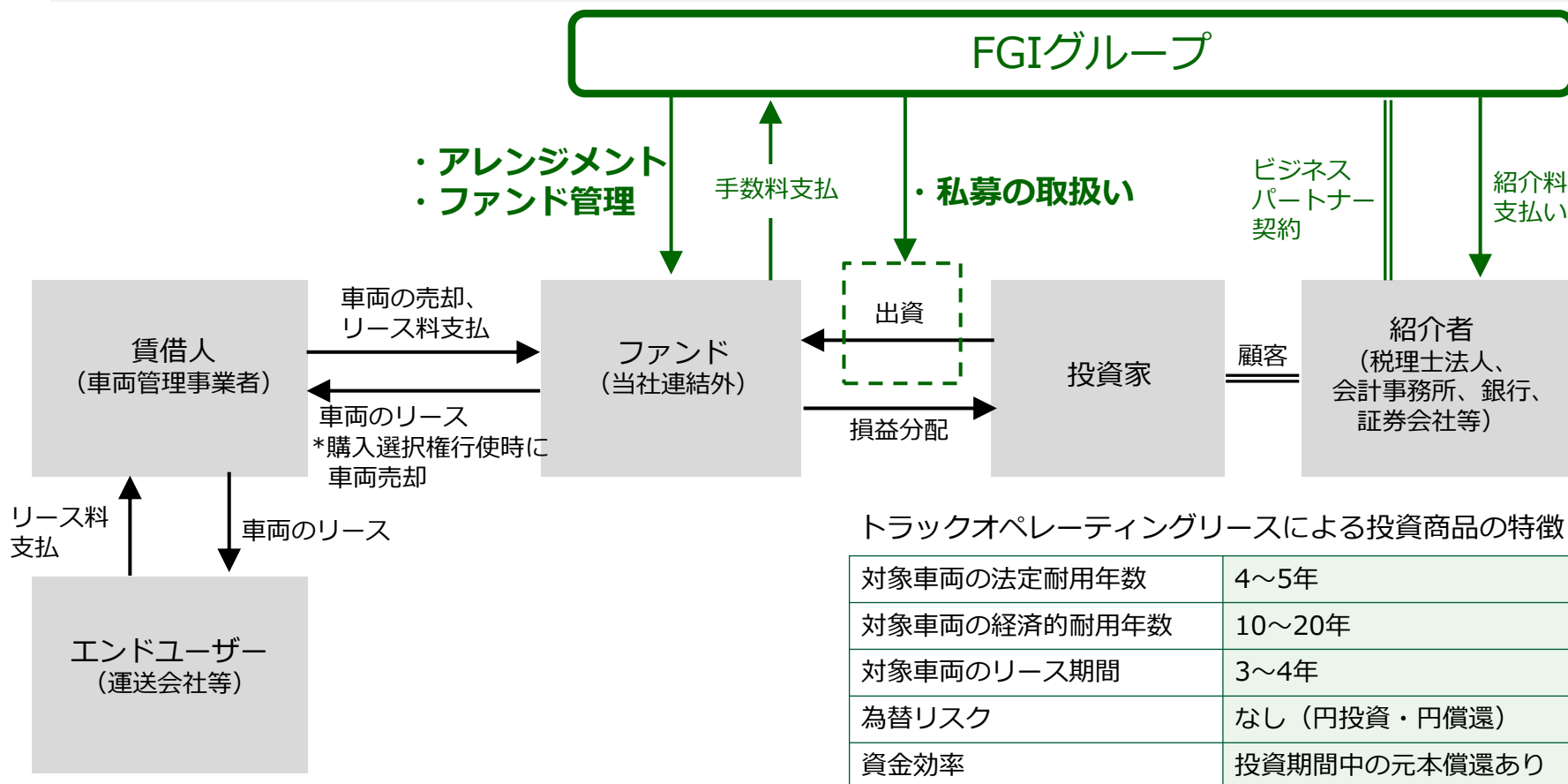
FGIキャピタル・パートナーズ(株) (FGICP)

投資運用業、投資助言・代理業
(関東財務局長 (金商) 第2175号)

投資銀行事業 — 「トラックオペレーティングリース」ビジネスモデル

商用大型車両等を投資対象とするファンドのアレンジメントや管理等による手数料収入が中心

- ・紹介者から、事業法人等の投資家を紹介いただき勧誘。
- ・当社グループがアレンジ、管理するファンドによって車両管理事業者が保有する車両を買取り、リースバック。
- ・トラックオペレーティングリースによる投資商品は、一般的な他のオペレーティングリース商品に比べて、投資期間が短く、為替リスクが無く、資金効率が高いため、競争力が高い。

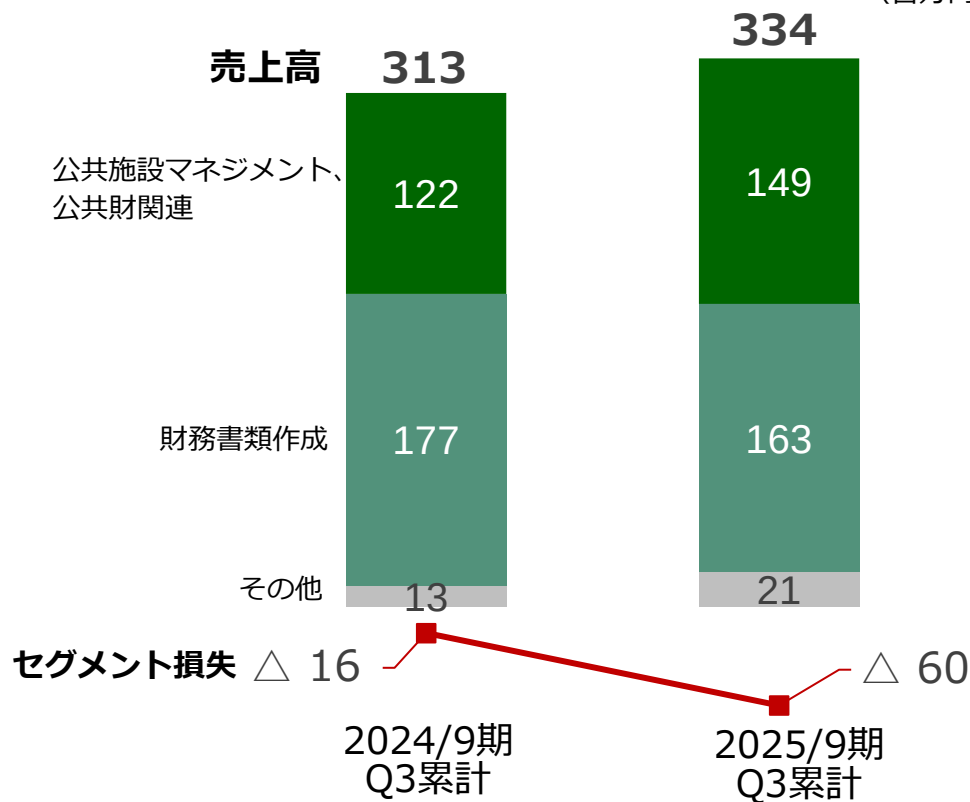


行政計画の策定支援などが増加し、6.5%の増収 人員を増強し、積極的に営業拡大

- ・ 住民の子育て支援・健康増進等のニーズの高まりを受け、これに応えるための行政計画策定支援の件数、売上が増加。
上記は成長分野と位置付け、先行投資としてコンサルタントを増強したため、人件費等の販管費は増加。
- ・ 自治体との関係を深耕して、同一の自治体に複数メニューを提供する施策を推進。

セグメント情報

(百万円)



公共施設マネジメント、
公共財関連

財務書類作成

その他

セグメント損失

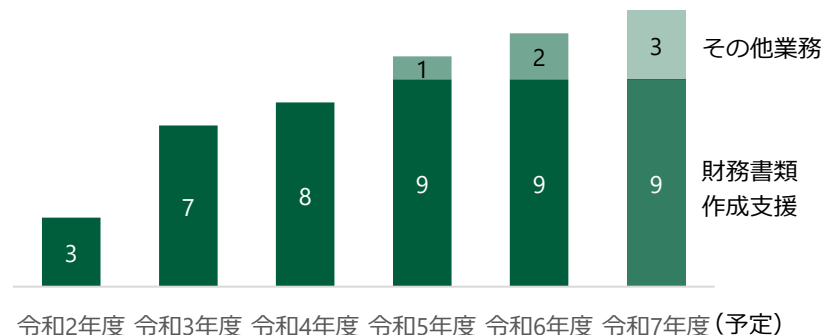
△ 16

2024/9期
Q3累計

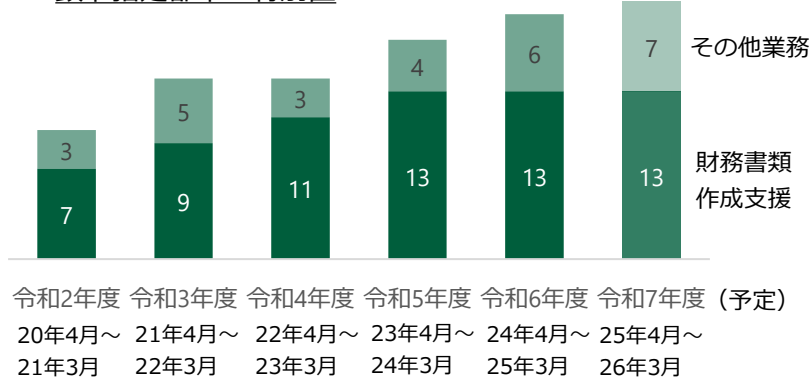
2025/9期
Q3累計

(注) 売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。

都道府県 大規模自治体の受託団体数



政令指定都市・特別区



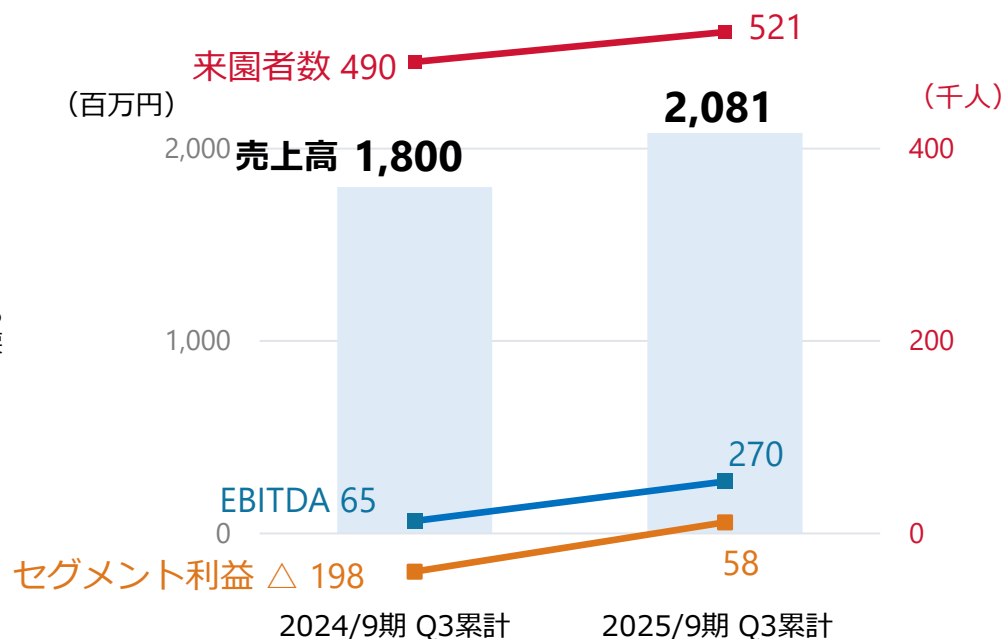
メッツァ来園者数は、4-6月に弱含むも、前Q3累計比6.3%増の52.1万人 当Q3累計期間は15.6%の増収、黒字転換。

- ・入園チケット料金改定*（11/1実施）により、ファミリー層の来園が増加。
（*こども1デーパス 前売2,000円を1,000円に値下げ、中高生にこども料金適用。）
- ・上記料金改定の他、世代別・地域別チケット割引施策やコンテンツの充実、イベントプロモーションが奏功し、来園者数は増加基調で推移。
来園者数は、Q1,2に前年同期比11.1%増となるが、当Q3は土休日に雨天が多く前年同期比4.3%減、前Q3累計比は6.3%増の52.1万人
- ・売上高は、前3Q累計比15.6%増となるが、前3Q（4-6月）比は3.7%増に留まる。
- ・Q3（4-6月）の主なプロモーション
「ムーミン谷とアンブレラ」（4/12~9/23）、湖上花火大会（ナイトパス発行：4/25~5/6）

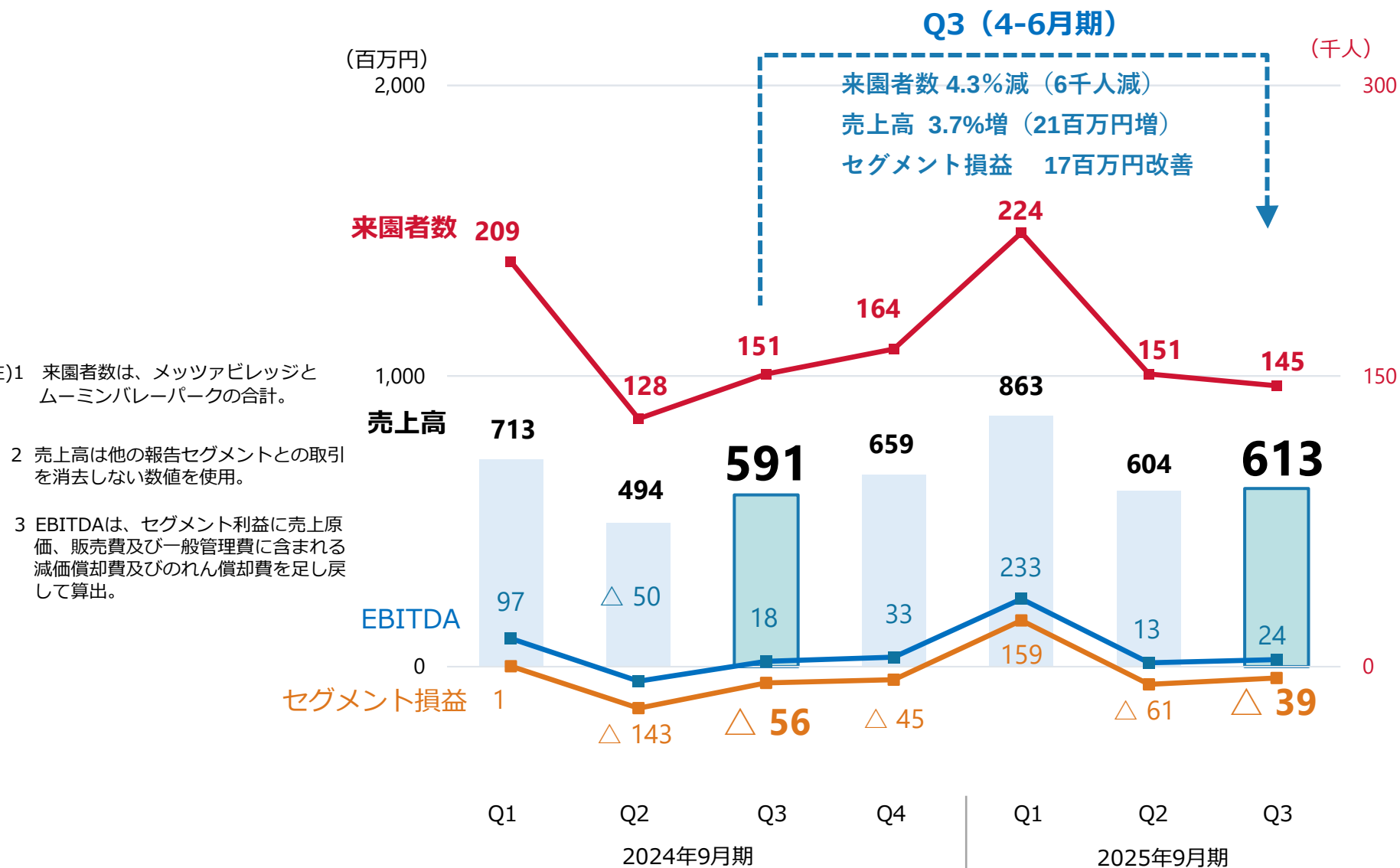
(注)1 来園者数は、メッツァビレッジとムーミンバレーパークの合計。

2 売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

3 EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足して算出。



エンタテインメント・サービス事業（四半期業績推移）



ムーミンバレーパークの取り組み — 新エリア開設

**新エリア「湖上のテラス」に、「ムーミン谷のじゃぶじゃぶプール」を開設
より魅力のあるパークへ進化するため、設備投資を継続**

8/1、新エリア「湖上のテラス」がグランドオープン。

夏のシーズンイベントは、10m×10mの大型のみずあそびエリア「ムーミン谷のじゃぶじゃぶプール」。

湖上のテラスには、森の散策道として設置した木道によりアプローチ。



ムーミンバレーパークの取り組み - 夏のキャンペーン

家族みんな、学生同士が、割引キャンペーンで手軽に楽しめる環境を整備
アクセスも充実させ、更なる来園者数の引き上げによる収益拡大を狙う

『ムーミン谷でみずあそび』 (7/5～9/23)

こどもたちがびしょ濡れになって遊べる
「飛行おにの魔法のスプラッシュゾーン」「じゃぶじゃぶクリーク」

おとなが涼やかに過ごせるリラックスゾーン
「ムーミン谷のふしぎなミストの道」

視界いっぱいのひまわりがフォトジェニック
(新登場)「リトルミイのひまわりミストテラス」



高校生以下1デーパス500円 『こども応援キャンペーン』

(7/5～9/30)



18歳～22歳がお得な 『U22パス』

(前売限定、7/5～9/30)



無料直行バス、無料シャトルバスを運行 (7/19～8/31)

埼玉県内広域での集客を図るべく、主要地点からの直行バス、
パーク近隣駅からのシャトルバスを運行。



『ムーミン谷の湖上花火大会』 (7/5～9/28)

開催日程はメッツア公式サイト
をご確認ください。

人気コンテンツの花火大会を、開催。
ライトアップと湖上花火を楽しめるナイトパスを販売。



		※お得！		
		前売	当日	団体料金 (10名以上)
おとな	1デーパス	3,900円	4,300円	3,700円
	ナイトパス 16時以降利用可	2,300円	2,500円	-
U22 18歳～22歳	1デーパス	2,200円	-	2,200円
こども 小学生まで	1デーパス	500円	500円	500円

※表示価格は全て税込みです。

連結貸借対照表

資産の部			
	24年9月期	25年9月期 第3四半期	増減
流動資産	14,027,246	16,795,873	2,768,626
1 現金及び預金	5,789,907	6,852,909	1,063,002
2 受取手形・売掛金・契約資産	950,434	1,574,680	624,246
営業投資有価証券	1,560,437	1,831,782	271,345
営業貸付金	522,565	772,215	249,650
3 短期貸付金	8,332	518,432	510,100
販売用不動産	4,046,834	4,018,567	△ 28,267
商品	142,275	152,534	10,259
その他	1,111,128	1,691,617	580,489
4 貸倒引当金	△ 104,667	△ 616,866	△ 512,199
固定資産	6,642,432	9,174,033	2,531,600
5 有形固定資産	5,260,917	7,213,068	1,952,150
無形固定資産	181,418	140,867	△ 40,551
投資その他の資産	1,200,096	1,820,097	620,001
資産合計	20,669,679	25,969,906	5,300,227

1	営業CFは税前利益が22億円となるも、PEファンド投資、売掛金増加、賃貸資産取得により支払超過。投資CFは投資有価証券取得、貸付により支払超過となるが、財務CFは借入で受取超過となり、残高は増加。
2	PEファンドの業務受託やトラックオペレーティングリースのアレンジ等、航空技術サービスによる売掛金が増加。
3	新規プロジェクトに関連する貸付により増加。
4	短期貸付金に対して貸倒引当金を計上。
5	オペレーティングリースのために賃貸資産(航空機)を取得。
6	運転資金及び賃貸資産(航空機)取得のための借入により増加。
7	譲渡制限付株式(報酬)としての自己株式処分 62百万円 自己株式取得 2025年2月 299百万円 2025年5～6月 80百万円

負債の部				(単位：千円)
	24年9月期	25年9月期 第3四半期	増減	
流動負債	8,788,148	12,306,923	3,518,775	
支払手形・買掛金	241,273	268,670	27,397	
6 短期借入金	781,186	4,032,102	3,250,916	
1年内償還予定の社債	—	100,000	100,000	
1年内返済予定の長期借入金	5,998,872	6,024,917	26,045	
未払法人税等	326,067	256,299	△ 69,768	
リース債務	32,914	32,515	△ 399	
賞与引当金	322,024	267,663	△ 54,360	
その他	1,085,810	1,324,755	238,944	
固定負債	1,128,982	2,164,359	1,035,376	
社債	—	100,000	100,000	
長期借入金	638,535	1,404,958	766,423	
リース債務	21,074	33,833	12,759	
繰延税金負債	22,636	140,266	117,629	
退職給付に係る負債	153,433	189,280	35,846	
その他	293,302	296,019	2,717	
負債合計	9,917,131	14,471,283	4,554,152	

純資産の部			
株主資本	9,366,630	10,356,290	989,659
資本金	5,373,336	5,373,336	—
資本剰余金	968,668	970,600	1,931
利益剰余金	3,470,851	4,776,952	1,306,101
7 自己株式	△ 446,226	△ 764,599	△ 318,372
その他の包括利益累計額	164,312	47,658	△ 116,653
新株予約権	103,108	102,125	△ 983
非支配株主持分	1,118,496	992,550	△ 125,946
純資産合計	10,752,548	11,498,623	746,075
負債純資産合計	20,669,679	25,969,906	5,300,227

連結損益計算書

(単位：千円)							
		2024年9月期 第3四半期累計	売上比	2025年9月期 第3四半期累計	売上比	増減額	増減率
売上高	1	9,578,972	100.0%	10,358,735	100.0%	779,762	8.1%
売上原価		3,989,291	41.6%	3,576,389	34.5%	△ 412,902	△ 10.4%
売上総利益		5,589,681	58.4%	6,782,345	65.5%	1,192,664	21.3%
販売費及び一般管理費	2	3,383,580	35.3%	3,919,679	37.8%	536,098	15.8%
営業利益		2,206,100	23.0%	2,862,666	27.6%	656,566	29.8%
営業外収益		55,096	0.6%	112,169	1.1%	57,072	103.6%
営業外費用		152,749	1.6%	186,811	1.8%	34,061	22.3%
経常利益		2,108,447	22.0%	2,788,024	26.9%	679,577	32.2%
特別利益	3	241,943	2.5%	8,162	0.1%	△ 233,781	△ 96.6%
特別損失		—	—	4 505,128	4.9%	505,128	—
税金等調整前四半期純利益		2,350,390	24.5%	2,291,057	22.1%	△ 59,332	△ 2.5%
法人税等合計		474,420	5.0%	545,706	5.3%	71,286	15.0%
四半期純利益		1,875,970	19.6%	1,745,351	16.8%	△ 130,619	△ 7.0%
非支配株主に帰属する四半期純利益	5	231,334	2.4%	147,590	1.4%	△ 83,743	△ 36.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	6	1,644,636	17.2%	1,597,761	15.4%	△ 46,875	△ 2.9%

- 1 事業承継案件へのPE投資の回収、トラックオペレーティングリースのアレンジ・ファンド管理、エンタテインメント・サービス事業の売上が伸びる。航空ビジネス、アセット投資は減収。
- 2 人件費、メツツア関連の広告宣伝費や支払手数料が増加。
- 3 前Q2末の(株)ピーコンホームサービスの新規連結の際に、暫定的な会計処理により負ののれん発生益66百万円を計上したが、前期末に174百万円増加の241百万円で確定。このため、見直し後の金額を用いている。（税金等調整前四半期純利益以下の各段階利益も調整）
- 4 新規プロジェクトに関連する貸付金について、貸倒引当金繰入額を計上。
- 5 主に航空ビジネスを行う海外子会社の減益により減少。
- 6 経常利益までの各段階利益は増加したが、特別損失や前期の特別利益の反動により、減少。

株主還元

自己株式の取得

2025/9期は、2回の取締役会決議による自己株式の取得を実施

- 2025年5月取得枠設定分は、7月末で取得上限の4割強を取得。

	実施済（2025/2/12決議）	実施中（2025/5/9決議）
決議した取得期間	2025/2/13～2025/4/30	2025/5/12～2025/10/31
取得上限	株数 2,500,000株 （発行済株式総数（自己株式を除く）の 1.27%） 金額 3億円	株数 2,500,000株 （発行済株式総数（自己株式を除く）の1.29%） 金額 3億円
取得結果	取得期間 2025/2/13～2025/2/26（約定ベース） 株数 2,350,400株 （発行済株式総数（自己株式を除く）の 1.19%） 金額 299,994,200円	（取得経過） 取得期間 2025/5/12～2025/7/31（約定ベース） 株数 1,157,500株 （進捗状況：46.30%） 金額 123,654,600円（進捗状況：41.22%）
取得方法	東京証券取引所における市場買付	東京証券取引所における市場買付

期末配当

期末配当予想は、3円(前期比1円50銭増)で変更なし

連結経営指標等の推移

		2020年 9月期	2021年 9月期	2022年 9月期	2023年 9月期	2024年 9月期	2025年9月期 第3四半期累計
売上高	(百万円)	6,841	8,107	9,301	9,302	13,807	10,358
売上総利益	(百万円)	2,313	3,370	3,990	5,111	7,355	6,782
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	△ 992	178	587	1,343	2,569	2,862
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	△ 1,135	115	540	1,277	2,461	2,788
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	△ 1,186	130	176	1,603	1,675	1,597
純資産	(百万円)	7,304	7,439	7,842	9,393	10,752	11,498
総資産	(百万円)	16,583	16,457	17,933	19,123	20,669	25,969
1株当たり純資産	(円)	31.12	31.47	32.72	41.19	48.66	53.76
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	(円)	△ 5.90	0.65	0.88	7.97	8.41	8.19
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	－	0.65	0.87	7.94	8.36	8.13
自己資本比率	(%)	37.7	38.5	36.7	43.4	46.1	40.1
自己資本利益率	(%)	△ 17.3	2.1	2.7	21.6	18.8	－
株価収益率	(倍)	－	86.1	44.6	7.7	8.7	－
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	680	747	△ 701	615	4,055	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 282	△ 173	△ 141	766	△ 547	－
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 767	△ 360	802	△ 538	△ 790	－
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	2,142	2,379	2,375	2,868	5,674	－
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	156(224)	149(209)	176(144)	153(169)	168(200)	202(223)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	28(6)	28(4)	30(4)	26(6)	48(7)	64(10)

フィンテック グローバル株式会社 会社概要

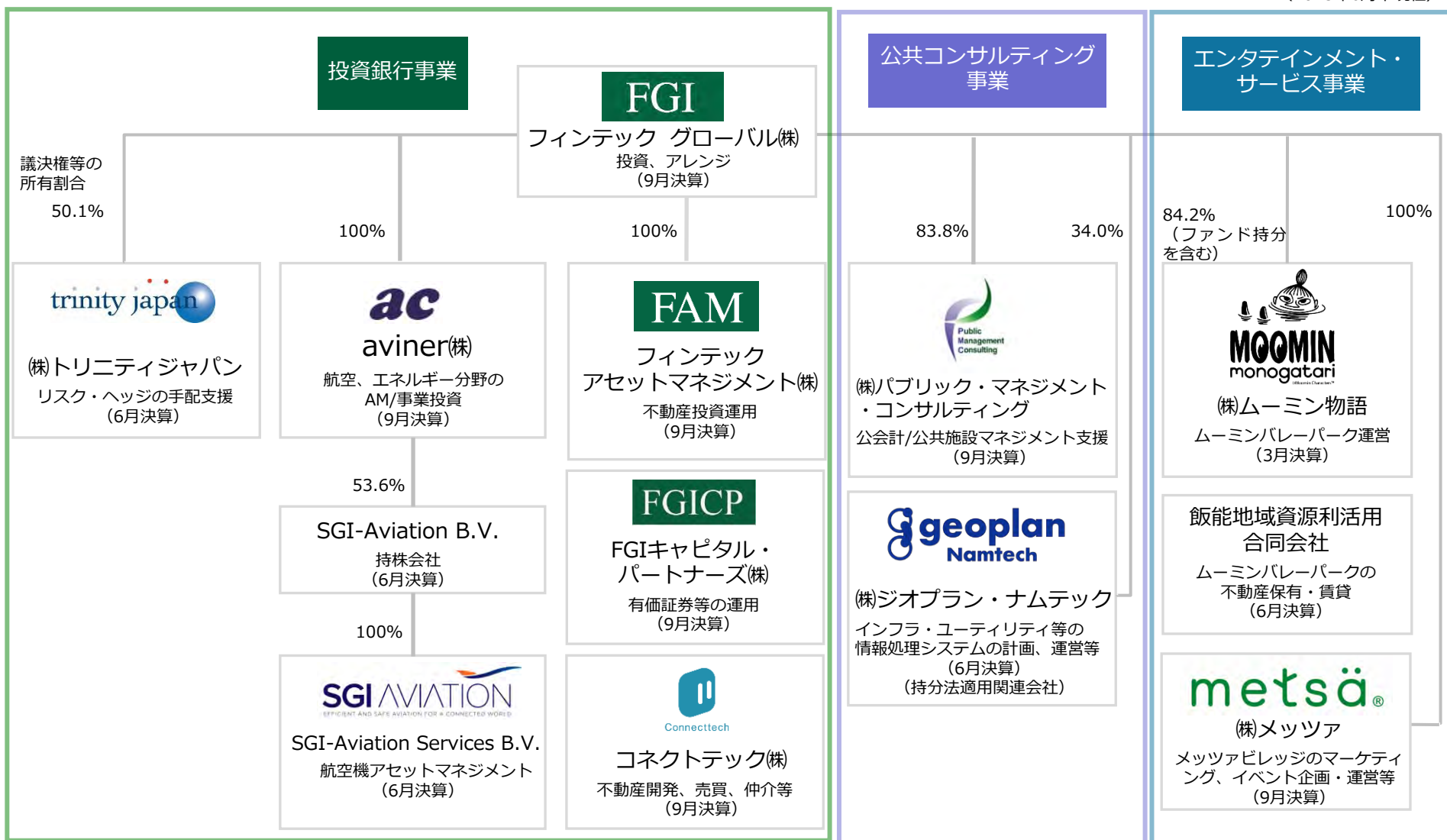
本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階	
設立	1994年12月7日	
代表	代表取締役社長 玉井 信光	
上場日	2005年6月8日	
証券コード	8789 (東京証券取引所 スタンダード市場)	
事業年度	10月1日から9月30日まで	
事業内容	①投資銀行業務 ②投資業務 ③投資運用業務 ④地域課題ソリューション	
発行済株式総数	201,321,700株 (2025年6月30日現在)	
単元株式数	100株	
資本金	5,373百万円 (2025年6月30日現在)	
連結純資産	11,498百万円 (2025年6月30日現在)	
連結従業員数	202名 (2025年6月30日現在、臨時従業員含まず)	

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

FGIグループ会社・事業セグメント

(主な連結子会社・関連会社を抜粋)

(2025年6月末現在)



免責事項

本資料は、当社およびFGIグループの2025年9月期第3四半期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。